

日本人の話し方について留学生が持つ印象とその要因 中国人・韓国人・台湾人留学生の比較

小宮修太郎 平形裕紀子 長能宏子

要 旨

3年前に行った「日本人の会話とその教育に関する留学生の意識調査」の結果をふまえ、今回は中国・韓国・台湾の学生を対象に標題の内容のアンケート調査を行った。この調査では日本人の話し方に対するポジティブな印象とネガティブな印象の内容を明らかにし、それらに影響する要因を分析した。調査した要因は、学生の文化的背景、日本における滞在年数、日本や日本人に対するイメージ、日本人との交流の程度、異文化への対応の仕方の差異などである。ポジティブな印象及びネガティブな印象とそれらに影響する要因との関連は文化的要因と時間的要因では明確であるが、その他の要因については国ごとに異なっていることがわかった。

【キーワード】 日本人の話し方 ポジティブな印象 ネガティブな印象 文化的要因
時間的要因

Impressions and Their Factors which Foreign Students Have toward the Japanese Way of Speaking : Comparison among Chinese, Korean and Taiwanese Students

Komiya, Shutaro HIRAKATA, Yukiko NAGANOU, Hiroko

Based upon the results of the survey from three years ago " A Survey on the Feelings And Thoughts of Foreign Students about Japanese-style Conversation and its Teaching : focusing on the data of students from China, South Korea and Taiwan ", we made another survey as seen above. We surveyed the contents of positive and negative impressions which the foreign students have toward the Japanese way of speaking, and analyzed what kind of factors these impressions are influenced by. The points of analysis were the students' cultural background, the length of their stay in Japan, their image of Japan and Japanese people, the level of their interchange with Japanese people, and how they have adopted to a foreign culture, etc. The relationship between the factors and the positive/negative impressions was clear in the sense of cultural factors and time factors, however other factors differed depending upon the country.

1. はじめに

1.1 調査の目的・内容

1997年に、筆者らは「日本人の会話とその教育」に関する留学生の意識調査を行った。その調査の主な目的は、留学生は日本人の話し方やコミュニケーションにどのような意識を持っているか、日本人的な会話の仕方を学習することにはどのような考え方を持っているかを明らかにすることであった。こうした調査の出発点における問題意識が、「日本人の話し方への違和感が日本語会話の学習にどのような影響を持つか」というものだったため、調査内容の主な部分は「学習者の違和感を明らかにする」ことにあてられていた。

この時の調査対象は世界各国からの留学生とされていたが、収集したデータの大部分が東アジアの3カ国の留学生のものであり、回答結果からは国別の違いが大きいと感じられたため、調査報告の論文においては、中国・韓国・台湾3カ国のみに限って集計し、比較考察を行うことにした。

1998年2月にこうした内容の論文をまとめた後で、筆者らはこの研究によって東アジアの留学生の「日本人の話し方」への違和感の様々な内容、国別の違い、それを規定する文化的要因などを明らかにできたと感じるとともに、他の側面、他の要因も調査研究していきたいと思うようになった。

他の側面とは、日本人の話し方への好意的な印象という意味でのポジティブな印象のことであり、他の要因というのは、滞日期間の長さや、日本人との交流の程度、異文化での生き方と日本人への対応の仕方の差異など、ネガティブな印象・ポジティブな印象に影響しそうな諸要因のことである。

また、今回の調査対象は前回の経験をふまえて、東アジアの3カ国からの留学生に限ることとした。

1.2 調査の対象・方法

対象は日本の大学・大学院で学ぶ中国人・韓国人・台湾人留学生171名（筑波大学、法政大学、東京国際大学の学生）。国籍別内訳は、中国人75名、韓国人69名、台湾人27名。滞日年数別内訳は、1年未満21名、1年以上3年未満87名、3年以上59名、不明4名である。

アンケート調査用紙は授業を通じて配布・後日回収し、一部は郵送して返送その他の方法で回収した。後者の手段をとったのは、滞日期間の長い留学生のデータも収集したいと考えたからである。

アンケート調査の主な質問内容は、日本人の会話の仕方では好きな点や取り入れたい点があるか、日本人と話すとき不自然な感じや不快な感じを持つことがあるか、それらはそれぞれどんな内容のことか、などである。その他に、上記の諸要因について調べるために、8つの質問項目を設けた。

この調査用紙では、ポジティブな印象とネガティブな印象の調べ方を違うものにした。ネガティブな印象は、その内容種類にどのようなものがあるかが前回調査の結果から分かっていたので、それをもとに20項目の選択肢を用意して、「今感じるもの」、「初めは感じたもの」に印を付けてもらうことにした。それによって、詳しい分布状況と時間的な変化がつかみやすくなると思ったからである。一方、ポジティブな印象については、内容の予測がつかなかったため、程度を見る5段階の選択方式や

自由記述方式を組み合わせて回答してもらうことにした。この結果、こうした調査方法の違いと対応して、集計や分析の方法も2つの領域で大きく異なるものになっている。

2. ポジティブな印象とその要因

2.1 東アジア3カ国に見られる傾向

ここでは、まず、質問5-1および5-2の回答結果の全体集計にもとづいて、東アジアからの留学生のポジティブな印象についての調査結果を見ていく。

2.1.1 ポジティブな印象を持つ留学生の割合と、回答分布状況

5-1、5-2の選択式設問への回答の分布状況は、以下の表1、表2で示されるようになっている。

表1. <質問5-1 日本人の会話の仕方では好きな点があるか>の回答分布

選択肢 その意味	5 たくさんある	4.5 かなり	4 かなり	3.5 いくつ	3 いくつか	2.5 いくつ	2 すこし	1.5 すこし	1 ない	無回答	計
回答数(人)	5	1	22	4	68	5	42	1	17	11	171
割合(%)	2.9	0.6	12.9	2.3	39.8	2.9	24.7	0.6	10.0	6.4	100

表1で2から5までの回答者数の割合を合計すると83%となり、大多数の留学生が何らかの程度で、日本人の会話の仕方では好きな点があると感じていることが分かる。その中では、「いくつがある」と答えた人が最も多く、全体の約40%を占めている。「いくつか」と「少し」を選んだ人の割合を合計すると、67.2%となり、全体の3分の2以上を占めている。また、「かなりある」から「たくさんある」までの範囲の答を選んだ人は合計で16.4%となり、約7人に1人の留学生が日本人の会話の仕方のいろいろな面に好感をもっていることを示している。これに対して、「ない」と答えた人の割合は、約10%という数値になっている。

表2. <質問5-2 日本人の会話の仕方では取り入れたい点があるか>の回答分布

選択肢	a(ある)	b(ない)	無回答	計
回答数(人)	69	87	15	171
割合(%)	40.4	50.9	8.8	100

一方、表2からは約40%の留学生が、日本人の会話の仕方では取り入れたい点があると感じていることが分かる。その割合は5-1で「好きな点がある」と答えた人の約半数に相当するものである。

なお、5 - 1で4以上の数字を選んだ人の中で「取り入れたい点がある」と答えた人の割合を見ると78.6%になっており、好感度の強さが感じられる。

このように、東アジア3カ国の留学生の場合は、多くの人々が日本人の会話の仕方の何らかの面にポジティブな印象をもち、中にはある種の特徴を自分の話し方に取り入れたいと思っている人も半数程度含まれていることが分かった。

2. 1. 2 ポジティブな印象の具体的内容と、その種類別分布状況

それでは、そのポジティブな印象の具体的内容には、どのようなものがあるのだろうか。質問5 - 1の自由記述部分への回答を分類、整理してみると次のページの表3のようになった。

なお、5 - 1で2(「少し」)以上を選んだ人142人のうち、この部分にも何らかの記入をした人は96人いた。以下の表では、一個人が2つ以上の内容を記入している場合は、複数回答のように扱って各項目の回答者数を計算した。パーセントの算出にあたっては、96人を分母の数として計算した。

表3を見ると、東アジアの留学生が「好きな点」と感じていることの内容は多様であり、言語行動の多くの側面に及んでいることが分かる。と同時に、上位の数項目には特に多くの回答が集中していることから、代表的と呼べるような好感の内容がいくつかあることも分かる。また、それらの中には内容的に見て互いに近い関係にあるものも含まれていると言える。そこで、この点も意識しつつ、回答の分布状況を見てみよう。

この表の分類で、回答数が最も多いのは「相手の気持ち、立場を考えて話すこと」であり、5 - 1の自由記述部分に記入した人数の16.6%を占めている。これに、相手への気配りという点で共通性を持つ[3]「相手を傷つけないように気をつける」を合わせると26%となる。前記のとおりここは自由記述方式ということで、ほとんどの人が1つだけの内容を記入しているため、この程度の数字にとどまっているが、複数回答方式で調べれば全体の中でこの何倍かの割合を占めることが予想される。

2番目に多いのが[2]「礼儀正しいこと」の11人であるが、これは特に[11]「敬語を使うこと」と結び付けてみるができると思う。この2つは大きく分類すれば「丁寧さ = Politeness」のストラテジーの中に入るものであり、相手への敬意を示すという共通性も持っているからである。この2項目の回答者数を合わせると合計15人で15.4%となっている。

4番目に多い[4]「相手の話をよく聞くこと」も[5]「相づちをよく打つこと」と1つのグループとして見るができる。というのは、後者は特に韓国人留学生が記入していることが多いのであるが、2.2.3で述べるように回答の文面からそのことが「相手の話をよく聞く姿勢を示すもの」として見られ、その意味で好まれていることが分かるからである。この2つを合わせると16.6%となる。

以上の3つのグループが、「好きな点」の内容の中で最も回答数の集中したものであり、東アジアの留学生の中で最も多く見られるポジティブな印象の内容種類であると言える。

表3 . <好きな点を具体的に書いて下さい>の回答の分類一覧表

[1]	相手の気持ち、立場を考えて話すこと。	16人
[2]	礼儀正しいこと。丁寧話すこと。	12人
[3]	相手を傷つけないように、気をつけて話すこと。	9人
[4]	相手の話をよく聞くこと。	9人
[5]	相づちをよく打つこと。	7人
[6]	あいさつするのが、感じがいい。	5人
[7]	話し方がやさしい。	5人
[8]	謙そんする言葉をよく使う。	5人
[9]	言い方、呼び方によって、かわいい感じになること。	4人
[10]	あいまいな言い方。	4人
[11]	敬語をよく使うこと。	3人
[12]	親切さが感じられること。	3人
[13]	ひかえめな話し方。	2人
[14]	明るく、楽しそうに話す。	2人
[15]	愛想がいい。親しみがある。	2人
[16]	プライバシーを聞かないこと。	2人
[17]	距離感を保つ表現が多い。 (「初めてのとき丁寧で、だんだん自由に話す」を含む)	2人
[18]	会話の進め方。初めは軽い話で雰囲気を作る、など。	2人
[19]	簡潔な言い方。内容は、はっきり。	2人
[20]	若者の話し方がおもしろい。	2人
[21]	笑顔、ほほえみがいい。	2人
[22]	小さなことでも、謝る。	1人
[23]	おせじが言いやすい。	1人
[24]	その他の非言語行動。 (目を見て話す、しぐさ)	2人
[25]	日本語の特徴的な要素 (「ね」、最後で肯否、擬声語・擬態語、強調・疑問の助詞、漢字)	5人
[26]	その他 (秩序、冷静、話の根拠、政治的・嫌な話題を避ける、なめらか)	6人
[27]	個人差の指摘 (「人によって異なり、日本人全体では言えない」というもの)	1人

他に、数名が共通して挙げていたのがその下に続く5項目であり、「あいさつが感じがいい」「話し方がやさしい」「謙そんする言葉をよく使う」「言い方で、かわいい感じになる」「あいまいな言い方」となっている。さらに、2、3人が挙げていたものでは、「親切さを感じる」「ひかえめな話し方」「楽しそうに話す」「愛想がいい」「親しみがある」「プライバシーを聞かない」などが並んでいる。これらの部分からは、どんな傾向がうかがえるかを考えてみよう。

1つは、ソフトなムードを感じさせるものがいくつか含まれていることである。[7]の「やさしい」[8]の「謙そん」[13]の「ひかえめ」などが、その点で共通していると思われる。[7]、[13]の中には次のような例があった。

- 例) ・女の人の話し方がとてもやさしいです。
・おだやかな言葉使いがとてもいいと思います。
・自分の主張を強くやらない。

2つ目は、温かさや明るさが好まれていることを感じさせるものがいくつか含まれていることである。[12]「親切さ」[14]「明るく、楽しそう」[15]「愛想がいい」は直接にそれを表現しているし、[6]の「あいさつ」も回答の文面を見ると、思いやり、温かみ、親しみなどが感じられるようなあいさつが好まれているのが分かり、共通性が見られる。

- 例) ・がんばって、気をつけて、風邪を引かないように、お疲れさん・・・
・上司は「よろしくね」みんなはお互いに「お疲れさま」を言うこと。
・買い物するとき、店員さんからあいさつしてくれて、気分がいい。

3つ目は、前回の調査でネガティブな印象の内容としてあがっていたもののいくつかは、ここではポジティブな印象の内容としてあがってきていることである。前回調査で[10]「あいまいな言い方」[17]「距離感を保つ表現」などは「快適でない」とされていたし、[8]「謙そん」[11]「敬語」[21]「笑顔」なども「不自然に感じる」という意味で違和感の対象とされていた。日本人の会話のいくつかの特徴が、ある人々にとっては違和感の対象になっていると同時に、ある人々にとっては好感の対象になっていることが分かる。

このことと関連してもう1つ注目されるのは、日本人の話し方を考える上で不可分の関係にあると見られる「相手の気持ちを考える」という特徴と「はっきり言わない」という特徴が、今回の調査結果では、前者がポジティブな印象の最も代表的な内容、後者がネガティブな印象の最も代表的な内容として現れていることである。ここには、表と裏のような関係にある一対の特徴の一方が好感の主な対象となり、他方が違和感の主な対象となるという構図が見られて、興味深い。

2.1.3 [取り入れたいと思う点]の回答結果について

表2で5-2の質問に「ある」と答えた人は69人であった。そのうち自由記述部分にも何らかの回答を記入した人は59人いた。これらの回答を分類・整理した上で、4人以上の回答者数になっているものを並べると、次のようになる。

表4 - 1 . <取り入れたいと思う点は何ですか>の回答の種類別分布状況(1)

分類項目とその人数	(好きな点の人数)
[1] 相手の気持ちを考える。傷つけない。	11人(25人)
[2] 礼儀正しいこと。丁寧に話すこと。	8人(11人)
[3] 相手の話をよく聞く。相づちをよく打つ。	8人(16人)
[4] 敬語をよく使う。	5人(3人)
[5] 謙そんする言葉をよく使う。	5人(5人)
[6] 話し方がやさしい。	4人(5人)
[7] あいまいな言い方。	4人(4人)

このように、<好きな点>で上位を占めた項目の多くが、<取り入れたい点>の回答集計でも上位の項目になっていることが分かる。とくに、前節で指摘した3つのグループはここでも大きな割合を占めている。

しかし、上位項目の中にも、<好きな点>として記入した回答者数と比べて変化が見られるものもある。減っているのは[1]「相手の気持ち」のグループと[3]「相手の話を」のグループで、それぞれ半数以下となっている。一方、ほとんど減らず、全体の中の比重を高めているのは、[2]「礼儀正しい」と[4]「敬語を」を合わせたグループで、とくに「敬語を」は人数が増えている。

次に、3人以下の回答者数の項目を並べてみると、以下のようにになっている。

表4 - 2 . <取り入れたいと思う点は何ですか>の回答の種類別分布状況(2)

分類項目とその人数	分類項目とその人数
[8] 会話の進め方	[16] ひかえめな話し方
[9] 小さなことも謝る	[17] 相手を立てる
[10] お礼の言葉をよく言う	[18] 相手に話す余地を与える
[11] あいさつ	[19] 若者の会話
[12] 親切な話し方	[20] おもしろい話し方
[13] プライバシー、距離感の表現	[21] その他
[14] 論理的な話し方	[22] 個人差の指摘
[15] はっきり言うこと	

2.2 国別に見たポジティブな印象の比較

東アジア留学生のポジティブな印象を国別に比較してみると、程度別の分布でも、内容種類別分布でもそれぞれの特徴、相違点があることが分かる。ここでは、前節の各表に国別内訳の数字を加えた

集計表などをもとに各国の特徴を見ていく。

2.2.1 「好きな点」の回答についての比較

5-1の回答結果を国別に集計してみると、以下ようになった。

表5. <好きな点>の回答の程度別・国別分布状況

選択肢	5	4.5 ~ 4	3.5 ~ 3	2.5 ~ 2	1.5 ~ 1	無回答	合計
中国	4	10	28	17	7	9	75
韓国	1	10	30	18	8	2	69
台湾	0	3	13	7	4	0	27
全体	5	23	71	42	19	11	171

この表を見ると、1つは、5点台の回答者数が中国だけに偏っているのが特徴的である。中国人留学生の中には、少数であるが、日本人の話し方に対する好感度のとくに高い人達が存在することを示しているように思われる。

もう1つは、台湾人留学生の回答の中では、4点台以上の部分の比率が少ないことが目立っている。しかし、この点については、今回台湾人のデータ数が少なかったため、台湾人留学生の一般的な傾向、特徴と見ていいのかわかりにくい。

次に自由記述部分の回答分布を見てみよう。前出の表3の分類項目名を簡略化して、国別分布を示すと表6のようになる。

表6. <好きな点>の回答内容の種類別・国別分布状況一覧表

分類項目	中	韓	台	分類項目	中	韓	台
[1]相手の気持ちを考える	8	7	1	[15]愛想、親しみがある	0	1	1
[2]礼儀正しいこと	7	3	2	[16]プライバシーを聞かない	2	0	0
[3]相手を傷付けない	4	3	1	[17]距離感を保つ表現が多い	2	0	0
[4]相手の話をよく聞く	3	6	0	[18]会話の進め方	1	1	0
[5]相づちをよく打つ	1	6	0	[19]簡潔な言い方	1	1	0
[6]あいさつ	3	1	1	[20]若者の話し方	1	1	0
[7]話し方がやさしい	2	2	1	[21]笑顔、ほほえみ	0	1	1
[8]謙そんする	1	4	0	[22]小さなことでも謝る	1	0	0
[9]かわいい感じの言い方	1	2	1	[23]おせじが言いやすい	1	0	0
[10]あいまいな言い方	3	1	1	[24]その他非言語行動	1	0	1
[11]敬語をよく使う	3	0	0	[25]日本語の特徴的な要素	1	1	3
[12]親切さが感じられる	2	0	1	[26]その他	2	2	2
[13]ひかえめな話し方	0	2	0	[27]個人差の指摘	1	0	0
[14]明るく楽しそうに話す	0	1	1				

まず、中国の特徴を見てみよう。第一に目につくのは、前記の3つのグループのうち、「礼儀」と「敬語」のグループが他の2国より際立って多いことである。このことは、<取り入れたい点>の国別分布でも同じことが見られるので、中国人留学生のポジティブな印象の特徴だと言える。

さらに、「あいさつ」、「親切さ」、「あいまいさ」、「プライバシー」、「距離感」などでも中国が多く、はっきりした差が見られる。このうち、「あいさつ」は前節で述べたように、温かい気持ちが伝わる面が評価されているので、「親切さ」の項目と共通点が感じられる。そうすると、<親切さや温かみの感じられる話し方>が好感の対象になりやすいことも1つの特徴であると言えそうだ。また、少数派かもしれないが、「プライバシーの尊重と距離感の表現」を好む人達がいることも他の2国に比べて目立っている。

次に、韓国の特徴を見てみる。ここでは、前記の3つのグループのうち「相手の話を聞く」と「あいづち」のグループが他の2国より際立って多いのが特徴的である。特に「あいづち」の項目は、ほとんどが韓国人の回答となっている。この「あいづちをよく打つこと」への好感が「相手の話をよく聞くこと」への好感と類似性、共通性を持つものであることは、回答の文面を見るとよく分かる。

- 例) ・聞く人がずっと聞いていることを反応してあげること。ex. うん、うん、
・今聞いてるよ、という感じであいづちをうつ。
・よく相づちを打つこと。参加、同調、理解の態度を見せている。

さらに、このグループの回答の中には、「日本人の友達と話す時、相手の気持ちをよくわかってくれて、何よりうれしい」、「相手の意見が自分と違ってても、その人の意見をちゃんと聞いてくれる」などの内容もあり、韓国人留学生が「相手の話をよく聞く」という点を高く評価しているのがその文面から感じられた。

その他には、「謙遜する」、「ひかえめな話し方」などの項目で、韓国人の回答がほとんどであることも目立っている。これらの内容の共通点を考えると、自分を押し出すことなく、相手を立てるような話し方が好まれやすいという特徴があると言えそうだ。

最後に、台湾人留学生の回答の特徴を見ていきたいのであるが、これまでも言及してきたように、5 - 1の自由記述部分に記入した回答者数が15人と少ないため、はっきりした傾向を読み取ることは難しい。ただ、5 - 2の自由記述部分にある以下のような回答は、同時に<好きな点>でもありと感ぜられるので、これらを合わせて見ていくこともできると思う。

例)(<取り入れたい点>への台湾人留学生の回答)

- ・会話の相手の気持ちをよく考えること。
- ・相手を思いやる。傷付けたくない。
- ・相手のことをよく察知してから、話しかけること。
- ・正式な場合で、謙譲な言い方など。
- ・親切さを感じる。愛想がいい。
- ・今、若者の会話が簡単だと思います。

これらを合わせて集計してみると、前記の3つのグループの中では、「相手の気持ちを考える」と「礼儀正しい」の2つのグループに若干の集中が見られることが分かる。

また、「明るく楽しそうに」、「親しみ」、「笑顔」などの項目の回答内容の文面からは、台湾人留学生の独自の感覚が感じられることも指摘しておきたい。

例)(<好きな点>への回答から)

- ・ほほえみながら、本当に楽しそうに会話をする事。
- ・むじゃきに自分の気持ちを正直にしゃべったとき。

2.2.2 「取り入れたい点」についての回答の比較

ここでは、5-2の選択肢部分の回答の国別比較だけを行うことにする。自由記述部分の種類別・国別分布にはすでに見てきたとおりの傾向がそのまま現れているので、繰り返す必要はないと思うからである。

5-2の「取り入れたい点がありますか」への回答を国別に集計してみると、以下のようになった。

表7. <取り入れたい点>の回答の国別分布状況

選択肢	a = ある	b = ない	無回答	合計
中国	37(49.3%)	27(36.0%)	11(14.7%)	75(100%)
韓国	24(34.8%)	42(60.1%)	3(4.4%)	69(100%)
台湾	8(29.6%)	18(66.7%)	1(3.7%)	27(100%)
全体	69	87	15	171

(注) カッコ内の数字は、その国の回答者数に占める割合を示す

この表を見ると、<好きな点>の選択式回答の国別分布よりもさらにはっきりと国による違いが出ているのが感じられる。

最も目立つのは、中国における分布と、他の2国における分布の違いである。韓国と台湾では、「ない」と答えた人が60%をこえており、「ある」をはるかに上回っている。これに対して、中国では「ある」と答えた人が「ない」を大きく上回り、約半数になっている。

このように、「取り入れたい点がある」と答えた人の割合が他の国と比べて際立って多く、自国の中でも多数派になっていることが、中国人の回答分布に見られる特徴である。かなり多くの中国人留学生が日本人の話し方の何らかの特徴を取り入れたいと思っていることが分かる。

一方、台湾と韓国では「ない」と答えた人が多数派になっており、「ある」と答えた人は3分の1前後にとどまっている。<好きな点>の回答では両国とも何らかの程度で「ある」と答えた人が約

85%を占めていたことを考えると、はっきりした対照が感じられる。台湾と韓国では、かなり多くの留学生が「好きな点はあるけど、取り入れたいとは思わない」と感じていることが分かる。

2.3 ポジティブな印象に影響する諸要因

2.3.1 時間的要因の影響について

日本人の話し方に対する留学生のポジティブな印象は、滞在期間が長くなるにつれてどのように変化していく傾向があるのだろうか。ここでは、回答者の全体を、滞日期間が1年未満の者（短期）、1年以上3年未満の者（中期）、3年以上の者（長期）の3つの集団に分けて、その中の回答分布や自由記述の回答内容などを比較することによって、滞日期間という時間的要因が与える影響を見ていきたい。

まず、5 - 1の選択式部分の回答を滞在期間の長短別に集計してみると、以下のようになった。

表8. <好きな点があるか>への回答の滞日期間別分布状況

選択肢	5	4.5 ~ 4	3.5 ~ 3	2.5 ~ 2	1.5 ~ 1	無回答	合計	平均値
短期	0	7(33%)	8(38%)	6(29%)	0	0	21	3.1
中期	4(5%)	11(13%)	34(39%)	21(24%)	10(12%)	7	87	2.8
長期	1(2%)	4(7%)	28(47%)	15(25%)	8(14%)	3	59	2.5
全体	5	22	70	42	18	10	167	2.7

(注:総人数が167人になっているのは、滞日期間の無回答者が4人いたためである)

表8を見ると、短期の分布と中・長期の分布の間には大きな違いが見られる。また、中期と長期の間にはそれほど大きな違いはないものの、構成割合の数字にははっきりした差が見られるところもある。

まず、短期の回答分布を見ると、その回答のすべてが2～4点台に入っており、2点台・3点台・4点台にほぼ均等に分布していることが分かる。それと、1点台・5点台という両極の回答が見られないことが大きな特徴として感じられる。

これに対して、中期の回答分布では1点台から5点台まで、広く分散する傾向が見られる。その中で、3点台は短期と変わらない割合を占めているが、4点台以上の割合は短期の半分近くまで減っているのが分かる。その一方で2点台以下の割合が増えて、1点(ない)を選んだ人も10%含まれるという結果になっている。

長期の回答分布は、だいたい中期のそれと似ているが、各部分の占める割合は異なっているところもある。まず、3点台の割合は長期全体の約半数になっており、短期・中期の場合よりさらに大きな割合を占めている。4点台以上の割合は、さらに少なくなり、合計で10%未満に落ちている。

全体的に見ると、短期の人の回答が選択肢の狭い範囲に集中しているのに対して、中・長期の人の回答は多様化、分散化する傾向が見られること、その中で4点台以上の回答の割合は滞在期間が長くなるにつれて減少する傾向が見られることなどが、はっきりした差異として感じられた。こうした回答分布の差異を反映して§回答数値の平均値も短期が最も高く§中期§長期の順に低くなっている。

次に、〈好きな点〉の自由記述部分の回答を種類別・滞日期間別に集計してみると、以下のようになった。なお、3つの集団別の自由記述回答の記入者数は、短期16人、中期4人、長期36人であり、短期を1とすれば、1:2.8:2.3の比率となっている。

表9 . 〈好きな点〉の自由記述回答の種類別・滞日期間別分布状況

分類項目	短	中	長	分類項目	短	中	長
[1]相手の気持ちを考える	3	5	7	[15]愛想、親しみがある	0	1	1
[2]礼儀正しいこと	3	4	4	[16]プライバシーを聞かない	1	0	1
[3]相手を傷付けない	0	3	6	[17]距離感を保つ表現が多い	0	1	1
[4]相手の話をよく聞く	0	2	5	[18]会話の進め方	1	0	1
[5]相づちをよく打つ	2	3	2	[19]簡潔な言い方	1	0	1
[6]あいさつ	0	1	3	[20]若者の話し方	0	2	0
[7]話し方がやさしい	1	2	2	[21]笑顔、ほほえみ	0	1	1
[8]謙そんする	0	4	1	[22]小さなことでも謝る	0	1	0
[9]かわいい感じの言い方	0	1	3	[23]おせじが言いやすい	0	1	0
[10]あいまいな言い方	0	2	2	[24]その他非言語行動	1	1	2
[11]敬語をよく使う	1	2	0	[25]日本語の特徴的な要素	2	0	3
[12]親切さが感じられる	0	2	1	[26]その他	0	5	0
[13]ひかえめな話し方	0	1	1	[27]個人差の指摘	0	1	0
[14]明るく楽しそうに話す	0	1	1				

この表の分布状況と§各項目の回答内容に見られる共通の特徴を考え合わせると、各時期に見られる傾向として、以下のようなことが指摘できる。

まず、短期における1つの特徴は、ポジティブな印象の内容が少数の主な項目に集中しやすいということである。ここでは、総数が16人という中で、半数の8人が[1]、[2]、[5]の3項目に入る内容の回答をしている。これは、中期・長期における集中度と比べるとかなり高いものである。

もう1つの特徴は、表面からも見えることや感じられることが、ポジティブな印象の内容のうちで大きな割合を占めていることである。例えば、「礼儀正しい」、「あいづち」、「やさしい話し方」、「敬

語」、「簡潔な言い方」などがそうであり、「非言語行動」、「その他」の項目にも、その種のものが見られた。

一方、中期における特徴としては、多様化・分散化ということがあげられる。分類項目数は22項目と最も多く、「その他」の項目にまとめた5人の内訳を合わせ見ていくと、さらに多様な広がりを感じられる。主な数項目の回答者数も5人、4人、3人という数字が並び、あまり顕著な集中は見られない。

中期のもう1つの特徴は、日本人のコミュニケーション文化や、生活の中での人間関係の維持の仕方の理解にもとづくと思われるものが多数含まれてくることである。「相手を傷つけないようにする」、「相手の話をよく聞く」の項目を初めとして、「謙そん」、「ひかえめな話し方」、「おせじが言いやすい」、「あいまいな言い方」、「距離感を保つ表現」などに属する回答も、その文化の長所の面が理解されてきていると感じさせる内容になっている。また、「あいさつ」も、2.1.2で指摘したように、日常生活の中で思いやりや温かな気持ちを伝え合うものとして評価されているので、同様な共通点を感じられる。

長期における特徴としては、全体の多様性も維持される中で、少数の項目への集中も見られることがあげられる。例えば、「相手の気持ちを考える」、「相手を傷つけない」、「相手の話をよく聞く」などの項目に顕著に回答が集中し、中期よりも人数が増えるという傾向が見られる。

もう1つの特徴は、中期の第2の特徴と共通のことが見られる中で、文化理解の深まりや個人的交流の深まりにもとづくと思われるものが比重を高めていることである。上記の3項目の回答数が増えていることもその現れであると思うし、他の項目も含めて回答内容の文面を見ていくとそのことがさらに明瞭に感じられる。例えば、次のような事例が見られた。

- 例) ・日本人の友達と話す時、相手の気持ちをよくわかってくれて、何よりうれしい。
- ・絶対に相手を傷つけないように、言葉づかいに気を付けている点。
 - ・相手に対する配慮。これが時には誤解を招く原因にもなるのでは・・・
 - ・(心にはなくても) 謙そんする言葉をよく使うから、気軽に会話ができる。
 - ・互いの気持ちを試しながら話題を進めるので、話しやすい。

今回の調査方法でポジティブな印象への時間的要因の影響について分かる範囲は限定されているが、その中で分かることは以上のようなものである。

2.3.2 その他の要因の影響について

つぎに、ポジティブな印象に影響すると思われるその他の要因の影響について述べる。前節では全体集計の結果だけを見てきたが、ここでは国別集計の結果から分かることを報告した上で、全体集計の結果について述べることにしたい。そのほうが、データの意味するものを説明しやすいと判断したためである。

今回の調査で調べてみたいと思った他の要因は、「日本と日本人に対する印象、好感度」、「日本人

との交流の程度」、「異文化の中で生きる上での基本的な考え方(この調査では異文化受容の柔軟さの程度を見る)」の3つである。これらの要因が影響しているかどうかを見るためには、ポジティブな印象の程度とそれらの程度との間に相関関係があるかどうかを見ることが一つの手がかりになると考えた。この視点から、まず国別に以下の表を作った。この集計にあたっては、ポジティブな印象の程度を日本人の話し方への好感度と等置した上で、それを〈好きな点〉の選択肢の点数の範囲によって見ていくことにした。具体的には、問5 - 1で1点から2点までの範囲を選んだ集団を「好感度が相対的に低い」、2.5点から3.5点までの範囲の集団を「中程度」、4点以上の範囲の集団を「相対的に高い」ものとして分類することにした。

表10. 各国回答者の〈日本人の話し方への好感度〉別に見た各要因の平均値

[中国]

話し方への好感度	集団の人数	違和感の頻度	交流形態の指数	友人数の指数	対日本人の好感度	対日本の好感度	問9答b割合	問10柔軟度
高い	14	2.7	3.7	3.6	3.1	3.8	10.0%	2.5
中位	30	2.7	3.8	3.3	3.2	3.2	7.4%	3.1
低い	22	2.7	3.2	2.6	2.9	3.2	26.3%	2.7

[韓国]

話し方への好感度	集団の人数	違和感の頻度	交流形態の指数	友人数の指数	対日本人の好感度	対日本の好感度	問9答b割合	問10柔軟度
高い	11	2.3	4.5	3.7	3.5	3.9	11.1%	3.0
中位	33	2.7	3.9	3.9	3.1	3.3	7.4%	3.2
低い	23	3.0	3.6	4.1	2.9	3.4	30.0%	2.7

[台湾]

話し方への好感度	集団の人数	違和感の頻度	交流形態の指数	友人数の指数	対日本人の好感度	対日本の好感度	問9答b割合	問10柔軟度
高い	2	3.5	2.0	3.0	2.9	4.0	0%	3.5
中位	14	2.9	3.4	3.1	2.9	3.5	35.7%	2.8
低い	11	3.0	4.3	3.0	2.6	3.5	9.1%	3.2

(注)「交流形態の指数」は、問2 - 2のaのみ、bまで、cまで、dまで、eまでを1～5の数字に置き換えたものの平均値。「友人数の指数」は、問2 - 3のa～eを1～5に置き換えたものの平均値。「対日本人の好感度」は問3の[人々について]の7項目全体の回答数値の平均値。「対日本の好感度」は問3の[好きな国 嫌いな国]の回答数値の平均値。「問9答b割合」は「日本人の話し方に合わせなくてもいい」と答えた人の割合。「問10柔軟度」は、b含むとき=4、c含むとき=3、d含むとき=2、aのみ=1と置き換えたものの平均値を示す。平均値が高いほど、好感度、柔軟度、交流程度、頻度が平均的に高いことを表す。

まず、中国の集計表を見ると、各項目の中で、「話し方への好感度」と比例した数値の増減が見られるものと、あまり見られないものがあることに気がつく。はっきりした正比例の関係が見られるのは、「友人数の指数」である。この項目では、「好感度が低い」集団と「好感度が高い」集団の平均値の間に1.0もの差があり、「中位」集団の平均値はその中間に位置している。まったく増減が見られないのは、「違和感の頻度」の項目である。他の要因の中では、「対日本人の好感度」も「問10の柔軟度」(文化変容における柔軟度の尺度と見る)にも比例の関係は見られない。

韓国の場合は、「対日本人の好感度」と「交流形態の指数」の2項目で正比例の関係が見られる。また、「違和感の頻度」との間にははっきりした反比例の関係が見られる。一方、台湾の場合は、どの項目でもはっきりした比例関係が見られない。

このように、国によって比例関係の現れ方に違いが見られるのだが、それは何を意味しているのだろうか。ここでは主に、中国と韓国の差異について考えてみたい。

まず、韓国についてであるが、「好感度」と「違和感の頻度」が反比例していることから、回答者の中に「日本人の話し方への好感度が高く、違和感頻度が少ない」タイプの人々と「好感度が低く、違和感頻度が多い」タイプの人々、「いずれも中程度の」タイプの人々という3つの集団が存在することが考えられる。この点は実際に5 - 1と6 - 1のデータをクロスして集計してみると、次のような分布になっている。

表11. 韓国人回答者の5 - 1、6 - 1回答の組み合わせ集計表

話し方への好感度	6 - 1 違和感頻度の回答：					合計(人)
	5点	4点台	3点台	2点台	1点台	
高い4 ~ 5	0	0	4	7	1	12
中2.5 ~ 3.5	0	3	20	10	0	33
低い1 ~ 2	2	6	6	9	0	23

「話し方への好感度」回答分布と「日本人への好感度」回答分布との間にも同様な関係が見られる。つまり、「日本人の話し方への好感度が高く、日本人のイメージもプラスの面が多い」タイプ、逆のタイプ、中間のタイプの人々の存在が見られるのである。

以上のことから、韓国人留学生の場合は、「一般的に日本人と日本のコミュニケーション文化への好感度が高い人々」と「いずれの好感度も低い人々」という両極が存在しているために、平均値という形でも、上記のような正比例や反比例の関係が現れてくるのだと考えられる。このことは、留学生教育の現場での経験とも一致する感がある。

これに対して、中国人回答者では「違和感」についても、「日本人への好感度」についても、組み合わせ集計をした場合に上記のような偏った分布は見られない。ただ、「友人数の指数」においての

み、そうした特徴が見られるのである。

表 1 2 . 中国人回答者の 5 - 1、2 - 3 回答組み合わせ集計表

話し方への 好感度	2 - 1 日本人の友だちの数の回答指数					合計(人)
	5点	4点	3点	2点	1点	
高い 4 ~ 5	4	3	5	1	1	14
中 2.5 ~ 3.5	9	6	6	2	6	29
低い 1 ~ 2	1	4	4	6	6	21

このようなことから、中国人留学生の場合は、一般的に日本人や日本の文化が好きであるかどうかには関係なく、主として個人的な交流が深まる中でコミュニケーション文化についてもいろいろな長所を見出して好感度を高めていく傾向があるのではないと思われる。

いずれにせよ、各要因と「話し方への好感度」との間に相関関係があるかどうかは国によって違いがあると言えそうである。

次に、台湾の集計結果について述べておくと、この表で見る限り、どの要因についても、「話し方への好感度」との相関関係が感じられるところはない。ただ一つ、「交流形態の指数」で他の 2 国と異なり、反比例の関係が見られるのが目立っているが、データ数が増えていっても同じ現象が続くかどうかは分からない。とくに「好感度の高い集団」の数値はわずか 2 人だけの平均値なので、大きく変わることが予想される。

最後に、3 カ国の回答者全体について「話し方への好感度」と各要因の関係を見ていきたい。全体集計をもとに、表 10 と同様なものを作ってみると、以下のようになった。

表 1 3 . 回答者全体の < 日本人の話し方への好感度 > 程度別に見た各要因の平均値

[全体]

話し方への 好感度	集団の 人数	違和感 の頻度	交流形態 の指数	友人数 の指数	対日本人 の好感度	対日本 の好感度	問 9 答 b 割合	問 1 0 柔軟度
高い	27	2.6	3.9	3.6	3.3	3.9	9.7%	2.8
中位	77	2.7	3.8	3.5	3.1	3.3	12.6%	3.1
低い	56	2.7	3.6	3.3	2.8	3.3	24.4%	2.8

まず、「交流形態の指数」、「友人数の指数」の項目を見ると、低・中・高の順にゆるやかな増加が見られるものの、表 1 0 の中国と比べると、増加の割合はかなり少ないものにとどまっている。一方、「日本人への好感度」の項目では、比例の関係でよりはっきりとした増加が見られる。しかし、これも表 10 の韓国と比べると、やや少ない増加割合である。これに対して、「問 1 0 柔軟度」の項目

を見ると、ここでは比例の関係は見られない。しかし、「問9」の否定の答、つまり「日本人と話すとき、日本人の話し方で話さなくてもいい」という答の割合は「話し方への好感度」が低い集団ほど多くなっている。このように反比例の関係が見られるが、どの集団でも否定の答えは少数にとどまっている。これらのことを国別集計の結果と合わせて考えると、全体的には次のようなことが言えると思う。

第一に、「日本人への好感度」という要因については、「話し方への好感度」との間にある程度の相関関係が見られる。第二に、「日本人との交流の程度」という要因についても多少の関係は見られるが、あまりはっきりした相関関係にはなっていない。しかし、これら2つの要因については、国によってはっきりした相関関係が見られる場合もある。第三に、「異文化受容の柔軟度」という要因については、今回の調査で主な指標として設定した項目で見る限り、全体でも国別でも相関関係が見られなかった。

3. ネガティブな印象とその諸要因

言語や文化が異なれば、会話をする時、同じ題材でも話の進め方（順序）内容の取捨選択など、個人差とは別に集団としてその言語や文化に共通した特徴がみられる。また考え方に集団として大まかな共通点がある。では中国、韓国、台湾3カ国の留学生は日本人の会話に対してどのような印象をもっているのだろうか。ここでは特にそのネガティブな印象の側面についての分析、考察を行っていく。

3.1 日本人の会話との差異の意識について

まず、質問4-1の回答の集計結果をもとに、留学生たちが自国の会話と日本人の会話の仕方について、どの程度、そのような内容の差異を感じているかを見ていきたい。なお、「差異についての意識」はポジティブ、ネガティブいずれの印象にもつながりうるものなので「違和感」とは区別して見るべきであると考えている。

質問4-1「日本人の会話と、あなたの国の会話の違いを感じることがありますか」に対する4択肢「よくある、ときどき、たまに、ない」の回答結果では3カ国の留学生中、違いを感じるものが「ない」と答えたのは全回答者数171名のうち、1名のみであった。「よくある」、「ときどきある」はいずれも、3カ国共通して30%以上であり、「たまに」を含めると、前述の1名を除き全員が日本人の会話と自国の会話に違いを感じている。

国別に回答結果の詳細をみると、中国人留学生の回答では、「ときどきある」がもっとも多く39%、次に多かったのが「よくある」で36%、「たまに」が23%であった。韓国人留学生の回答でも、中国と同様、もっとも多かったのは「ときどきある」で41%、次に多かったのが「よくある」で30%であった。しかし、台湾人留学生の回答は、中国、韓国と順番が逆で、もっとも多かったのは「よくある」で41%、「ときどきある」が、「たまにある」と同率で30%であった。以下にこの点に関する結果の詳細を表にして示す。

表 1 4 . < 質問 4-1 : 日本人の会話と、あなたの国の会話の違いを感じることがありますか。 >

国	よくある	ときどき	たまに	ない	無回答	回答者数
中国	27(36)	29(39)	17(23)	1(1)	1(1)	75(100)
韓国	21(30)	28(41)	19(28)	1(1)	0(0)	69(100)
台湾	11(41)	8(30)	8(30)	0(0)	0(0)	27(100)

少数点以下4捨5入、()は%

質問 4-2 (7 肢選択の複数回答形式) の回答を集計してみると以下ようになった。

以下に上述の回答結果を多い順に並べて表に示す。

表 1 5 . < 質問 4-2 : (日本人の会話は) どんな点が違うと感じますか。 >

順	選 択 肢	中国	韓国	台湾
1 . c	本当の気持と違うことをよく言う	52(69)	55(80)	24(89)
2 . d	答が「はい」か「いいえ」か、はっきりしないことがある	44(59)	52(75)	20(74)
3 . a	日本人は「すみません」を言いすぎる	41(55)	42(61)	12(44)
4 . b	謙遜する言葉をよく使う	31(41)	23(33)	12(44)
5 . e	会話の進め方 (話の順序) が違う	12(16)	4(6)	2(7)
6 . f	話題にすること、しないことが違う	5(7)	4(6)	3(11)
7 . g	その他	2(3)	3(4)	2(7)
	無回答	3(4)	1(1)	0(0)
	回答者数	75(100)	69(100)	27(100)

小数点以下 4 捨 5 入、() は %

このように、3 カ国の留学生は日本人の会話に対し自国の会話と比較してほぼ同数の人たちが違いを感じていることが分かった。

なお、記述数は少ないが、3 カ国とも共通して日本人は個人的なこと、私的なことは話さないことに言及している。話題の違いについての回答をまとめれば、日本人はプライバシーには触れない人が多く、恋、性、洋服について自国よりもよく話をすると感じている留学生がいるといえる。

3.2 違和感に関する回答について

「日本人と話すとき、何か「不自然な感じ」や「快適ではない感じ」などの気持ちをもつことがありますか」という質問6-1では、「ない(1)~いつもある(5)」の5段階にデジタル化したスケールに印をつけてもらったが、3カ国とも平均値は2から3の間であった。つまり「たまに~ときどき」の間が共通した平均的回答であった。

その中で細かくみると、3カ国の間に差が見られる。中国の平均値は2.41、韓国2.75、台湾2.98で、平均値だけから見ると、3カ国の留学生の中で、台湾からの留学生が日本人と話すとき、最も「不自然な感じ」や「快適ではない感じ」をもっていることになる。しかし今回は台湾人のデータ数が少なかったこともあり、一般的な傾向と言えるかどうかかわからない。

以下に上記の回答結果の詳細を表にして示す。

表16. <質問6-1 日本人と話すとき、何か「不自然な感じ」や「快適ではない感じ」などの気持ちをもつことがありますか。>

	1	2	2.5	3	3.5	4	4.5	5	無回答	回答数
中国	12	24	3	43	0	11	1	1	5	100
韓国	1	40	4	38	1	13	0	3	7	100
台湾	0	32	4	35	0	29	0	0	0	100

数字は%、小数点以下4捨5入

では、どんなことに「不自然な感じ」や「快適ではない感じ」をもつのであろうか。

質問6-2では不自然、快適ではない感じをもつことに15(a~t)の選択肢からいくつでもいいという条件で印をつけてもらった。その結果を以下に表に示す。

表17. <質問6-2 不自然なもの、快適でないものは何か>

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
中国	28	37	45	40	55	51	45	48	60	43	43	56	53	33	44	25	39	44	39	8
韓国	41	48	61	39	58	62	38	49	78	52	46	57	58	19	42	35	35	61	46	0
台湾	19	41	52	19	59	48	41	30	78	44	30	44	56	30	30	22	26	48	33	0
全体	32	42	53	36	57	55	42	46	70	47	42	54	56	27	41	29	35	51	41	4

数字は%、小数点以下4捨5入。太字は50%以上

全体で回答者の50%以上が印をつけた項目は、多い順にあげると、

1. i 自分の考えをはっきり言わない
2. e あいさつで、本当ではないことを言う(例えば「いつもお世話になっています」)

3. m 本当の気持ちと違うことを言う（例えば「今度遊びに来てください」）
4. f 色々なときに「すみません」と言う。自分が悪くないときでも言う
5. l 心を開いて、自分の本当の気持ちや考えを相手に伝えようとしな
6. c 人が話しているとき、「ええ」「そうですね」などの言葉をよく使う
7. r みんなが同じようなことを言って、自分の考えをいわない

の7つであった。中でも「i はっきり言わない」は70%にものぼった。これらの他にも4割台、3割台の比率を示す項目がほとんどであり、自由記述の「t」(4%)を除くと「p 決まった形の文で、決まった順番の話し方をする」、「n 敬語を使って丁寧すぎる話し方をする」のみが2割台にとどまっている。

なお「t その他」の自由記述の欄には次のようなコメントがあった。

- ・言葉使いから差別が見える。(中国)
- ・相手の身分(肩書き)を見て話し態度が変りすぎ。(中国)

日本人が、話し相手の年齢や身分、立場によって言葉づかいや態度を変えたりするのは一貫性を欠き不誠実と思っている留学生がいることが感じられる。

a ~ tの15項目の中で「特に強く「快適ではない」と感じるのはどれか」(質問8)、2つだけという条件で選んでもらったところ次のような結果が得られた。

表18. 質問8 <6-2で をつけたものの中でとくに強く不快と感じるもの>

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
中国	5	5	7	9	4	5	5	11	21	5	5	5	13	4	1	1	4	7	5	1
韓国	1	6	0	12	1	14	4	9	19	13	9	12	22	1	7	1	4	9	4	0
台湾	4	11	4	7	11	4	4	11	11	4	7	22	4	15	0	4	4	11	0	0
全体	4	6	4	10	4	9	5	10	19	8	7	11	15	5	4	2	4	8	4	1

数字は%、小数点以下4捨5入。太字は10%以上

2つだけ選ぶという条件であったにもかかわらず、1つの項目に集中して多いものはなく、全体で最も多いものでも19%どまりであった。10%を超えたものは5項目だけで多い順にあげると、

1. i 自分の考えをはっきり言わない
2. m 本当の気持ちと違うことを言う（例えば「今度遊びに来てください」）
3. l 心を開いて、自分の本当の気持ちや考えを相手に伝えようとしな
4. d 名前の代わりに、「あなた」「お前」などの嫌な呼び方をする
5. h 「はい」か「いいえ」か、よくわからない答え方をする

であった。

質問6-2で日本人と話すとき「不自然な感じ」や「快適ではない感じ」を抱く上位項目のi、m、lは共通しているが、質問6-2で高い比率を示したe、f、c、rは「特に強く快適ではない」ものはどれかという質問8の回答ではいずれも全体の10%以下に過ぎない。特に強いいやなことと限定した場合、各個人によって選択の差が大きく表われ、その結果回答が分散しているのではないか。

3.3 国別に見たネガティブな印象の比較

ネガティブな印象についても、国別に回答項目別分布状況を見ていくと、それぞれの特徴、相違点が感じられる。その中から、文化的要因による影響、つまり自国の文化によって方向付けられた差異も見えてくるのである。

ここでは、質問6-2の回答の中である国が50%を超える比率を示した項目のみの割合を国別に集計した下記の表18と、前節の表17をもとにして、国別の比較を行ってみる。

表19. <質問6-2回答の主な項目についての国別集計表>

記号	項目の文の内容	中国	韓国	台湾
c	人が話しているとき、相づちを打つ	45	61	52
e	あいさつで、本当ではないことを言う	55	58	59
f	いろいろなときに「すみません」と言う	51	62	48
i	自分の考えをはっきり言わない	60	78	78
j	はっきり言わず、相手がわかるのを待つ	43	52	44
l	心を開いて、本当の気持ちを伝えようとしなない	56	56	44
m	本当の気持ちと違うことを言う	53	58	56
r	皆が同じことを言い、自分の考えを言わない	44	61	48

数字は%、小数点以下四捨五入。

まず、中国については第一の特徴として、多くの人が違和感を感じる項目が多様であることがあげられる。前出の表17に見るように、大多数の項目が約4割から6割の間の数字を示しており、全体になだらかな形で高い比率の分布を示している。さらに、中国のみがt「その他」の項目に8%の比率を示している（他の2国は0%）ことから、その違和感の内容の多様性が感じられる。

第二の特徴は、比率が最も高くなるのは「自己開示度」の低さにつながる項目であり、次に高いのは「事実を反することを言う」に分類できる項目だということである。表19を見ると、最も多くの人が違和感を感じるのは、「自分の考えをはっきり言わない」、「心を開かない」の2項目、これに続くのが「本当ではないあいさつ」、「本当の気持ちと違うことを言う」の2項目となっている。

これらの2つの特徴は、前回調査の結果とも一致しており、中国人留学生の感じ方をよく表してい

ると思われる。

次に、韓国の場合には第一の特徴として、比率の上がり下がりの激しい分布状況になっていることがあげられる。表17に見るように、比率が極端に高い項目とあまり高くない項目が入り交じっているのである。

第二の特徴は、内容・種類の面で、最も多数の人が違和感を感じる項目が「はっきり言わないこと」で、その下に「すみません」、「相づち」、「みんなが同じことを言う」が並ぶことである。このように高い比率の項目の順番は中国とはかなり異なっている。

これらの特徴も基本的に前回調査の結果と一致している。ただ、新たに付け加わったこととしては、上記以外の多くの項目にもかなりの高い比率が見られることであり、それは、今回調査で項目チェックによる複数回答方式をとったためである。

台湾は、韓国以上に上下のばらつきが感じられる分布状況を示している。この点は韓国と共通の特徴である。しかし、比率の高い項目の内容種類という点では、中国との共通性も感じられる。最も高い3項目が、「自分の考えをはっきり言わない」、「本当ではないあいさつ」、「本当の気持ちと違うことを言う」となっているからである。

以上のように比較をしてみて感じるのは、日本人の話し方へのネガティブな印象の内容の分布に影響している大きな要因は、やはり自国のコミュニケーション文化や人間関係における行動様式との差異という意味での文化的要因だということである。この点についての具体的考察は大部分を前回の論文で行ったので、ここではそのときの結果を引用するにとどめておきたい。

[前回調査で文化的要因の内容としてあげた点]

中国：1. 自己開示度の高さ。ここから「心を開かない」という不満が出てくる。

2. 倫理観、価値観の違い。ここから「本当の・・・」という印象が生じる。

3. 会話の習慣の違い。とくに、最初のあいさつ部分。

4. 友人観の違い。ここから「遠慮しすぎる」などの印象が生じる。

韓国：1. 自己開示度の著しい高さ。ここから「はっきり言わない」系の不満。

2. 「すみません」に相当する言葉の使い方、重みの違い。

3. 友人観の違い。全てを見せ合う、を特徴とする。

(4) 会話の習慣の違い。とくに、相づちを打たない。(これは、引用ではなく、付け加えとして。)

台湾：1. 中国・韓国との共通点。自己開示度、倫理観など。

2. その他の独自性を感じさせる面。「自然な感じ」をよしとする価値観。

3.4 その他の要因の影響について

ここでは、文化的要因、時間的要因以外の要因の影響について述べる。ポジティブな印象に関して

見たときと同様に、ここでも違和感を感じる程度によって3つの集団に分けて、それぞれの要因に関係の深い項目を組み合わせ集計することによって、相関関係があるかどうかを見ていく。違和感度の強さは6-1の「違和感を感じる頻度」をもとに見ていくこととし、5「いつも」と4「よく」を「多い」、3「ときどき」を中位、2「たまに」と1「ない」を「少ない」として分類することにした。

表20-1 . 回答者全体の<違和感>頻度別に見た各要因の平均値

[全体]

違和感の頻度	集団の人数	話し方好感度	友人数の指数	対日本人の好感度	対日本の好感度	問9答b割合	問10柔軟度
多い	34	2.3	3.2	3.0	3.4	14.7%	2.8
中位	74	2.9	3.5	2.9	3.2	12.2%	3.0
少ない	63	2.8	3.5	3.1	3.6	17.5%	3.0

この表を見ると、違和感の頻度が多い集団についてのみ、2、3の項目での数値の低さが目につく。例えば、問10柔軟度や友人数の指数がやや低いことなどである。しかし、全体的には、どの項目にもはっきりした比例の関係は見られない。

次に国別の組み合わせ集計を見ていく。

表20-2 . 各国回答者の<違和感>頻度別に見た各要因の平均値

[中国]

違和感の頻度	集団の人数	話し方好感度	友人数の指数	対日本人の好感度	対日本の好感度	問9答b割合	問10柔軟度
多い	15	2.9	2.4	3.2	3.5	6.7%	2.9
中位	34	2.9	3.3	3.0	3.1	17.6%	2.9
少ない	27	2.9	3.1	3.2	3.5	11.1%	2.9

[韓国]

違和感の頻度	集団の人数	話し方好感度	友人数の指数	対日本人の好感度	対日本の好感度	問9答b割合	問10柔軟度
多い	11	1.8	3.9	2.8	3.3	18.2%	2.7
中位	27	2.9	3.9	3.1	3.1	7.4%	3.0
少ない	30	2.9	3.9	3.1	3.7	16.7%	3.2

[台湾]

違和感の頻度	集団の人数	話し方好感度	友人数の指数	対日本人の好感度	対日本の好感度	問9 答b割合	問10 柔軟度
多い	8	2.4	2.9	2.3	3.6	12.5%	2.8
中位	11	3.9	3.1	2.9	3.5	18.2%	3.0
少ない	9	2.3	3.9	3.1	3.4	33.3%	3.3

中国を見ると、友人数の項目だけはっきりした差が見られる。一方、日本人への好感度などはまったく関係がないように見える。こうした特徴は、ポジティブな印象について見られたのと同じものである。

これに対して、韓国は反対の特徴を示している。友人数の項目はまったく変わらず、日本および日本人への好感度はいくらか影響が感じられるからである。このことも、ポジティブな印象の場合と同じことになっている。また、質問10の柔軟度でも、ゆるやかな比例関係が見られる。

この中で、最もはっきり比例の関係が見られるのは、台湾である。友人数の指数では上下1.0もの開きが見られ、対日本人の好感度でも0.8の開きが見られる。この2つは、台湾の場合、ともに影響しているのかもしれない。また、異文化への柔軟度も開きは小さいが、きれいな比例関係になっている。ただし、質問9は違和感の少ない集団のほうがb「日本人と話すとき、日本人の話し方に合わせなくてもいい」が多くなっていて、問10の結果と同様の傾向にはなっていない。

以上のように、ネガティブな印象についても、ポジティブな印象と同じことが言えそうである。つまり、その他の要因については、国によって影響の仕方が異なること。中国と韓国では正反対のパターンが見られること。さらに、ここでは台湾が中国・韓国の両方を合わせたような形になっていることが注目される。

3.5 時間的な要因

3.5.1 日本に留学した当初と現在の違和感の変化

アンケート6-2のそれぞれの項目について、時間の経過にともなって違和感を感じる、感じないは変わっていくかどうかを検討する。

留学当初と現在との違和感の感じ方の違いを明確にするために、質問6-2の回答を、次の三つにわけた。

1. 留学当初も現在も違和感を感じている、もしくは留学当初も現在も違和感を感じていない(記号「±」)
2. 留学当初違和感を感じていなかったが、現在では感じている(記号「+」)
3. 留学当初違和感を感じていたが、現在は感じていない(記号「-」)

そして、調査した人数が国別に異なることからそれぞれの回答数の実数ではなく、項目ごとの回答の

割合を百分率で表したものを表 21 にまとめた。

表 21 . アンケート 6-2 集計結果

[表 21-1] 留学生全体

項目	中国			韓国			台湾		
	±	違和感+	違和感-	±	違和感+	違和感-	±	違和感+	違和感-
a	68.1	21.7	10.1	66.2	16.9	16.9	64.3	28.5	7.1
b	68.1	14.5	17.4	63.4	22.5	14.1	67.9	7.1	25
c	60.9	18.8	20.3	83.1	1.5	1.5	64.3	21.4	14.3
d	56.5	18.8	24.6	63.4	18.3	18.3	78.6	14.3	7.1
e	58	13	29	60.6	18.3	21.1	67.9	10.7	21.4
f	62.3	17.4	20.3	66.2	21.1	12.7	75	7.1	17.9
g	65.2	14.5	20.3	56.3	29.6	14.1	67.9	10.7	21.4
h	59.4	26.1	14.5	57.7	16.9	25.4	64.3	28.5	7.1
i	66.7	14.5	18.8	66.2	14.1	19.7	53.6	7.1	39.3
j	55.1	15.9	29	66.2	9.9	23.9	64.3	10.7	25
k	55.1	15.9	29	67.6	12.7	19.7	64.3	25	10.7
l	59.4	13.4	27.5	57.7	21.1	21.1	67.9	14.3	17.9
m	63.8	14.5	21.7	70.4	15.5	14.1	60.7	17.9	21.4
n	62.3	17.4	20.3	69	21.1	9.9	57.1	28.6	14.3
o	50.7	18.8	30.4	69	11.3	19.7	78.6	7.1	14.3
p	72.5	15.9	11.6	70.4	12.8	16.9	78.6	7.1	7.1
q	65.2	13	21.7	60.6	19.7	19.7	78.6	7.1	7.1
r	65.2	11.6	23.2	60.6	16.9	22.5	75	7.1	17.9
s	62.3	17.4	20.3	56.3	18.3	25.3	75	10.7	14.3
t	95.7	1.4	2.9	100	0	0	100	0	0
平均	63.6	15.7	20.7	66.5	16.3	17.2	70.2	13.6	16.1

[表 21-2] 中国

項目	滞在年数 1 年未満			滞在年数 1 年以上 2 年未満			滞在年数 2 年以上		
	±	違和感+	違和感-	±	違和感+	違和感-	±	違和感+	違和感-
a	87.5	12.5	0	56.7	33.3	10	74.2	12.9	12.9
b	87.5	12.5	0	66.7	10	23.3	64.5	19.4	16.1
c	75	12.5	12.5	63.3	16.7	20	54.8	22.6	22.6
d	87.5	12.5	0	43.3	23.3	33.3	61.3	16.1	22.6
e	100	0	0	46.7	13.3	40	58.1	16.1	25.8
f	75	25	0	56.7	16.7	21.7	64.5	16.1	19.4
g	87.5	12.5	0	53.3	20	26.7	70.9	9.7	19.4
h	75	25	0	63.3	16.7	20	51.6	35.5	12.9
i	75	12.5	12.5	56.7	16.7	26.7	74.2	12.9	12.9
j	87.5	12.5	0	36.7	23.3	40	64.5	9.7	25.8
k	37.5	25	37.5	53.3	10	36.7	61.3	19.4	19.4
l	75	12.5	12.5	46.7	16.7	36.7	67.7	9.7	22.6
m	87.5	12.5	0	56.7	10	33.3	64.5	19.4	16.1
n	100	0	0	50	23.3	26.7	64.5	16.1	19.4
o	75	12.5	12.5	30	23.3	46.7	64.5	16.1	19.4
p	100	0	0	63.3	20	16.7	74.2	16.1	9.7
q	75	11.8	12.5	53.3	16.7	30	74.2	9.7	16.1
r	100	0	0	56.7	13.3	30	64.5	12.9	22.6
s	75	25	0	56.7	20	32.3	64.5	12.9	22.6
t	100	0	0	93.3	0	6.7	96.8	3.2	0
平均	83.1	11.8	5	50.1	22.3	27.6	66.8	15.3	17.9

[表 21-3] 韓国

項目	滞在年数 1 年未満			滞在年数 1 年以上 2 年未満			滞在年数 2 年以上		
	±	違和感+	違和感-	±	違和感+	違和感-	±	違和感+	違和感-
a	42.9	28.6	28.6	76.7	13.3	10	61.8	17.6	20.6
b	57.1	28.6	14.3	56.7	23.3	20	70.6	20.6	8.8
c	100	0	0	76.7	10	13.3	85.3	8.8	5.9
d	85.7	0	14.3	60	10	30	61.5	29.4	8.8
e	85.7	0	14.3	60	23.3	16.7	55.9	17.6	26.5
f	71.4	14.3	14.3	70	16.7	13.3	61.8	26.4	11.8
g	57.1	28.6	14.3	53.3	40	6.7	58.8	20.6	20.6
h	28.6	0	71.4	63.3	13.3	23.3	58.8	23.5	17.6
i	85.7	14.3	0	60	10	30	67.6	17.6	14.7
j	71.4	14.3	14.3	60	16.7	23.3	70.6	2.9	26.6
k	100	0	0	60	16.7	23.3	67.6	11.8	20.6
l	57.1	28.6	14.3	56.7	16.7	26.7	58.8	23.5	17.6
m	71.4	28.6	0	70	13.3	16.7	70.6	14.7	14.7
n	85.7	0	14.3	63.3	20	16.7	70.6	23.5	5.9
o	85.7	0	14.3	70	13.3	16.7	64.7	11.8	23.5
p	85.7	0	14.3	63.3	16.7	20	73.5	11.8	14.7
q	100	0	0	50	33.3	16.7	61.8	11.8	26.4
r	71.4	28.6	0	53.3	20	26.7	64.7	11.8	23.5
s	85.7	0	14.3	53.3	23.3	23.3	52.9	17.6	29.4
t	85.7	0	14.3	53.3	23.3	23.3	52.9	17.6	29.4
平均	75.7	10.7	13.5	63.8	17.5	18.7	60.9	16.2	16.9

[表 21-4] 台湾

項目	滞在年数 1 年未満			滞在年数 1 年以上 2 年未満			滞在年数 2 年以上		
	±	違和感+	違和感-	±	違和感+	違和感-	±	違和感+	違和感-
a	80	20	0	60	20	20	61.5	38.5	0
b	80	20	0	60	0	40	69.2	7.7	23.1
c	60	20	20	70	20	10	61.5	23.1	15.4
d	100	0	0	70	30	0	76.9	7.7	15.4
e	60	0	40	100	0	0	46.2	23.1	30.8
f	60	0	40	80	10	10	76.9	7.7	15.4
g	60	20	20	70	0	30	69.2	15.4	15.4
h	80	20	0	60	20	20	61.5	38.5	0
i	80	20	0	30	10	60	61.5	0	38.5
j	100	0	0	50	10	40	61.5	15.4	23.1
k	40	30	0	70	20	20	69.2	23.1	7.7
l	80	0	20	80	10	10	53.8	23.1	23.1
m	60	20	20	60	20	20	61.5	15.4	23.1
n	60	40	0	50	30	20	61.5	21.3	15.4
o	100	0	0	100	0	0	53.8	15.4	30.8
p	80	0	20	100	0	0	61.5	15.4	23.1
q	100	0	0	90	0	10	61.5	15.4	23.1
r	60	40	0	80	0	20	76.9	0	23.1
s	80	20	0	90	0	10	61.5	15.4	23.1
t	100	0	0	100	0	0	100	0	0
平均	76	13.5	9	73.5	9.5	17	65.4	16.2	18.5

±：留学当初から違和感を感じているか感じていないか変化していない学生の百分率

違和感+：留学当初違和感を感じていなかったが、現在は感じるようになった学生の百分率

違和感-：留学当初違和感を感じていたが、現在は感じなくなっている学生の百分率

全ての数値は少数点以下 2 桁四捨五入

まず、全体的な傾向を見るために、それぞれの国ごとに、総回答数を分母とし、それぞれ「±」(違和感の有無に変化無し)「違和感+」「違和感-」の回答数の百分率を求めて、下の表にまとめた。

表 2 2 . 6 - 2 全体 (百分率)

国	中 国			韓 国			台 湾		
	±	+	-	±	+	-	±	+	-
%	63.6	15.7	20.7	66.5	16.3	17.2	70.2	13.6	16.1

全体としては、違和感を感じるにせよ感じないにせよ、滞在している間違和感の有無に変化がないというタイプの回答が3カ国とも最も多く、各項目の平均で60%以上を占めている。また、はっきりと有意差があるとは言いきれないが、3カ国とも留学当初と比べて当初多くの項目に違和感を感じていても、それが少なくなる傾向が見られる。

しかし、国別、また滞在年数別に分けてみると、一概にそうは言いきれない場合もある。以下、表 21 の結果をもとに、国別に検討する。

3 . 5 . 2 中国

中国で特徴的なのは、違和感の有無に変化なしと答えた学生が他の二国と比べると比較的少なく、また以前は違和感を感じていたが今は感じていないという回答のあった項目が比較的多いことである(表 22)。

この傾向は特に滞在年数が1年以上2年未満の学習者に顕著にみられる。中国全体でも変化がないと答えた学生は63%以上いるが、滞在年数が1年以上2年未満の学生では50%になっている(表 21)。

次に各項目毎に滞在年数別に違和感の感じ方の変化をみってみる。

[A 滞在年数1年以上2年未満]

上でも述べたようにこのグループ(以下Aグループ)では、違和感の有無が変化していない割合が比較的低い。項目 j では変化していないと答えた学生は全体の約3分の1(35.7%)にすぎず、最初違和感を感じていたが現在は感じていないという学生が上回っている(40%)。項目 o ではその傾向が更に顕著で違和感の有無が変化していないという学生は30%、最初感じていたが感じなくなったという学生は46.7%に上っている。

また、このAグループでは違和感が減る傾向が強く、20項目中18項目で違和感を感じなくなったという学生の数が感じるようになったという学生を上回っている。このうち17項目では違和感を感じなくなった学習者が20%以上あり、30%を越える項目も10項目に上っている。

逆に違和感を感じるようになった項目は項目 a と項目 p の2項目で、特に項目 a では33.3%の学生が以前は感じなくなったが、現在は感じるようになったと答えている。

[B 滞在年数2年以上]

次に滞在年数が2年以上の学生(以下Bグループ)については、各項目の平均で違和感の有無に変

化がないという回答はAグループより多く、違和感の有無に変化がない割合が最も少ない項目hでも50%を上回っている。また変化のない項目は滞在年数1～2年の学習者と異なっている(項目a、g、p、q、t)。

またAグループに比べ、違和感を感じるようになった項目が多い。特に項目hで35.5%の学生が以前は感じていなかったが現在は感じていると答えている。また項目cでは22.6%、項目bと項目k、項目mでも19.4%と20%近い学生が違和感を感じるようになっている。違和感を感じるようになった項目は、これらを含め、全部で11項目とAグループよりはるかに多くなっている。

一方、違和感を感じなくなった項目では、項目eとjで25.8%でもっとも多く、次いで項目c、d、l、r、sで20%を越えている。しかし、Aグループと比べると違和感を感じなくなった項目は少なくなっている。

[C 共通項目]

中国の2つのグループで共通して20%を越えている項目は、違和感を感じるようになったものでは、共通項目はなく、違和感を感じなくなった項目では、項目c、d、e、j、l、r、sがある。しかし、中国のAグループでは、違和感を感じなくなった項目が17項目、全体の8割以上あるため、Aグループの30%以上と比較すると共通して高い項目は、項目e「あいさつで、本当ではないことを言う」と項目j「はっきり言わないで、相手がわかってくれるのを待つ」である。

これらのことから、中国人学習者では滞在年数1年から2年の間に、違和感を感じなくなる項目が多いことが分かるが、この傾向は滞在年数が伸びるにつれて薄れていくと思われる。しかし、決まった表現を用いる挨拶言葉や曖昧な表現(項目e、j)については両グループともグループ内でもっとも高い数値であり、これらの項目で違和感を感じなくなっていく点が中国人学習者の共通点といえるであろう。

3.5.3 韓国

韓国からの留学生の違和感の全体的な変化をみると、違和感を感じるようになったという項目が他の二国より比較的多くなっている(表22)。この傾向は滞在年数に関係なく、1年以上2年未満で17.5%、2年以上で16.2%とほぼ同数である。また、他の二国に比べ、違和感を感じるようになったと回答した項目と違和感を感じなくなったと回答した項目の割合が比較的同じである。

次に、滞在年数別に各項目についてみる。

[A 滞在年数1年以上2年未満の学習者]

このグループ(以下Aグループ)では、感じ方に変化がないという回答の多い項目の割合が2年以上のグループに比べ、比較的少ない。項目b、g、l、q、r、sでは50%台である。特に項目qでは50%になっている。しかし、中国の二つのグループに比べると、比較的高くなっている。

このグループのもう一つの特徴は、項目毎のばらつきが大きいことである。

違和感を感じるようになった項目では、項目g「ものをもらったとき「ありがとう」を言いすぎ

る。ほめるときも、ほめすぎる」と項目 q「いらぬ言葉が多くて、話の進め方が遅い」でそれぞれ 40%、33.3%と違和感を感じるようになった学習者の割合が高い。項目 g で違和感を感じるようになった学習者は、中国・台湾ともに 10% 台であり、この項目で違和感を感じるようになった学習者が多いのは、韓国人学習者の特徴といえる。また、項目 q についても、中国・台湾、及び韓国の他のグループでは特に高くないことから、滞在年数 1～2 年の韓国人学習者の特色といえよう。この項目 g、q は言葉が重複されたり回りくどかったりすることについてであり、会話の内容の進行の遅さに違和感を覚えると言い換えることもできよう。この他、項目 b、e、n、r、s で違和感を感じるようになった学習者が 20% を越えている。

一方、違和感を感じなくなった項目では、項目 d「名前のかわりに、「あなた」「おまえ」などの嫌な呼び方をする」、項目 i「自分の考えをはっきり言わない」が 30%、項目 l「心を開いて、自分の本当の気持ちや考えを相手に伝えようとしぬ」、r「みんなが同じようなことを言て、自分の考えを言わない」が 26.7% と比較的高くなっている。この他、項目 h、j、k、p、s でも違和感を感じなくなった学習者の割合が 20% 以上となっている。

[B 滞在年数 2 年以上の学習者]

このグループ(以下 B グループ)では、変化がないという回答の割合が、全体平均で 66.9% と比較的高い数値になっている。また、韓国 A グループと同様、違和感を感じるようになった学習者の割合と、違和感を感じなくなった学習者の割合が各項目の平均ではほぼ同数となっている。

違和感を感じるようになった学生の多い項目では、A グループと異なり、項目 d「名前のかわりに、「あなた」「おまえ」などの嫌な呼び方をする」で 29.4% ともっとも高くなっている。この項目は A グループでは違和感を感じなくなった割合の方が高くなっているものである。この他、項目 f「いろいろなきに「すみません」と言う。悪くないときでも、言う」も 26.4% と比較的高い。この他に 20% を越える項目は、項目 b、g、h、n である。

一方、違和感を感じなくなった項目については、項目 s「日本人の言い方で話すと、本当の自分ではないような感じがする」がもっとも高く、29.4%、次いで項目 e「あいさつで、本当ではないことを言う」、j「はっきりいわぬで相手がわかってくれるのを待つ」で 26.6%。20% 以上の項目は、項目 a、g、k、o、r だった。

[C 共通項目]

韓国の二つのグループで共通して 20% を越えている項目としては、違和感を感じるようになった項目では、項目 b「よく笑って話すが、自然な笑いではない」、g「ものをもらったとき「ありがとう」を言すぎる。ほめるときも、ほめすぎる」、n「敬語を使って、ていねいすぎる話し方をする」の 3 項目である。ここから日本語の話し方のうち特に外交辞令的な表現(礼を繰り返す、過剰にほめたり敬語を使いすぎたりする)に違和感を覚えるようになっている学習者が多いということができよう。

違和感を感じる学生が少なくなった項目で共通しているものは、項目 j「はっきりいわぬで相手がわかってくれるのを待つ」、k「怒っているのか、喜んでいるのか、わからないような話し方をす

る、r「みんなが同じようなことを言って、自分の考えを言わない」、s「日本人の言い方で話すとき、本当の自分ではないような感じがする」の4項目となっている。これらは、学習者が日本語の婉曲な表現に慣れてきたことを表していると言える。

韓国人学習者は滞在年数1年から2年にかけて中国人学習者のように大きく変化するわけではないが、やはり滞在年数が長い学習者よりは変化の程度が大きいといえる。違和感を感じるようになった項目が多いか、感じなくなった項目が多いかの点については、特に顕著な傾向はみられなかった。しかし、項目g(過剰なお礼の表現)についてはAグループでは半数近くの学生が違和感を感じるようになったと回答しており、Bグループでも20%以上と、他の2つの国のそれぞれのグループにはみられない特徴がある。

3.5.4 台湾

台湾からの学習者は調査した人数が少なく、信頼性に幾分疑問が残るが、全体的な傾向としては、他の2つの国に比べ、各項目の平均で、変化していないという回答が全体で70%を越えており、高くなっている。変化の仕方については、中国人学習者ほどではないが、違和感が減少する項目が多い傾向がみられる。

[A 滞在年数1年以上2年未満の学習者]

このグループ(以下Aグループ)では、各項目の平均で、留学当初と現在で特に違和感に変化がないという回答が73.5%と全てのグループでもっとも高くなっている。全員が変化していないと答えた項目が項目e、o、pと3つあり、項目tを除けば全員が同じ答えの項目は他にない事から、この点が台湾Aグループのもっとも大きな特徴と言える。

違和感を感じるようになったという回答があった項目は、全20項目中11項目、なかでも項目d「名前かわりに、「あなた」「おまえ」などの嫌な呼び方をする」、n「敬語を使って、ていねいすぎる話し方をする」が30%で高くなっている。

一方、違和感を感じなくなった項目は17項目で、中でも項目i「自分の考えをはっきり言わない」については、6割の学習者が感じなくなったと回答している。これは、全グループ中もっとも多いものである。その他、項目b、jで40%と高い割合の学習者が違和感を感じなくなったと回答している。

[B 滞在年数2年以上の学習者]

このグループ(以下Bグループ)では、変化がないと答えた項目の全体の平均は、65.4%で他の2つの国とほぼ同じ数になっている。

違和感を感じるようになった学習者が多い項目は、項目a「話すとき、相手の目を見ない」、h「はい」か「いいえ」か、よくわからない答え方をする」で38.5%ともっとも高く、以下項目c、k、l、mが20%以上となった。また、項目iは違和感を感じるようになったという学習者が一人もいなかった。

一方、違和感を感じなくなった項目では感じるようになった項目とは逆に項目i「自分の考えをはっきり言わない」がもっとも高く、感じるようになった項目中もっとも高いgは感じなくなったと

いう学習者は一人もいない。この他に、項目 e、o が 30% 以上の学習者が違和感を感じなくなったと回答し、以下項目 b、l、r、s が 23.1%、項目 j、m、p が 21.3% で続いている。

[C 共通項目]

台湾の二つのグループで共通している項目としては、違和感を感じるようになった項目では項目 n 「敬語を使って、ていねいすぎる話し方をする」が 20% 以上の回答があった点が共通している。一方、違和感を感じなくなった項目としては、項目 i 「自分の考えをはっきり言わない」が両グループとももっとも多くなっている。

一方、B グループで違和感を感じなくなったと回答した学習者の多い項目 o 「形だけ、謙譲語を使った言い方をする」は A グループでは一人もおらず、この点では非常に異なっている。

これらのことから、台湾人学習者は、他の二つの国とは異なり、滞在年数が長い方が違和感の感じ方に変化が現れやすい傾向があるといえよう。また、台湾人留学生の共通点として、滞在年数に関わらず、項目 i について、以前は違和感を感じていたが、現在は感じなくなっているという学生が多い点が上げられよう。

3.5.5 全体的な傾向

以上みてきたように、違和感の感じ方の変化は、国によっても、滞在年数によっても非常に大きく変わると言える。全体としては、違和感が消えたという答の方が生じたという答を上回る項目が多いが、その変化の時期は国によって異なっている。中国人留学生では、日本に滞在して 1 年から 2 年目の間で、最初に感じた違和感が解消していく項目がどちらかといえば多く、それ以上になると、変化は鈍る傾向にあるのに対し、台湾人留学生では同じ期間ではそれほど顕著には現れず、むしろ 2 年以上滞在した学生の方が変化が起こりやすいと言える。

しかし、もっとも多かったのは、一部の項目を除けば、違和感を感じる有無に変化がないと答えた割合であり、最初に持った印象は滞在年数に関わらず消えにくいということができよう。

項目毎にみても、項目 a 「話すとき、相手の目を見ない」、h 「「はい」か「いいえ」か、よくわからない答え方をする」、n 「敬語を使って、ていねいすぎる話し方をする」などは、最初は違和感を感じるが、徐々にその違和感が解消される傾向にある。これは日本での会話の習慣や表現に慣れてきたことを表していると考えられる。逆に項目 e 「あいさつで、本当ではないことを言う」は最初感じなかった違和感を感じるようになる傾向にあるといえる。

4. まとめ

今回の調査でわかったのは、以下のようなことである。

- ・東アジアからの留学生の多くは、日本人の話し方に対して違和感と好感の両面の印象を持っている。
- ・好きな点の内容は、多様性が見られる。同時に「相手の気持ち、立場を考えて話す」など、い

くつかの項目には回答数が集中している。

- ・好きな点の各項目の回答分布には、国によって異なるパターンが見られる。
- ・好きな点の内容には、滞日期間の短期・中期・長期それぞれの特徴があり、時間的要因の影響がみられた。
- ・違和感の内容の項目別分布状況は、前回調査よりもさらに正確に把握できた。国別の比較によって、文化的要因の影響も再確認できた。
- ・その他の要因については、国によって影響している場合もあること、どの要因が影響するかも国によって異なることがわかった。この点はポジティブな印象への影響についてもあてはまる。
- ・違和感の感じ方にも、時間的要因の影響が見られた。ただし、変化のパターンは国によって異なることがわかった。

参考文献

1. 浅野慎一 (1997) 『日本で学ぶアジア系外国人』 大学教育出版
2. 岩男寿美子・萩原滋 (1988) 『日本で学ぶ留学生』 勁草書房
3. 久保田真弓 (1994) 「コミュニケーションとしてのあいづち」 『異文化間教育 8』 pp.59-76 アカデミア出版会
4. 小宮修太郎・長能宏子・平形裕紀子 (1998) 「日本人の会話とその教育に関する留学生の意識調査」 『日本語教育論集 13』 筑波大学留学生センター
5. スミス, R (1996) 「学習者から見た日本語学習 日本語独習者の学習自叙伝に見られる社会的および情緒的要因の分析を中心に」 『日本語教育・異文化間コミュニケーション』 pp.105-125 凡人社
6. 祖父江孝男 (1990) 「韓国人の意識と行動 今日までの諸研究の比較考察」 『韓国社会の文化人類学』 pp.124-140 弘文堂
7. 田中共子 (1991) 「在日留学生の文化的適応とソーシャルスキル」 『異文化間教育 5』 pp.59-76 アカデミア出版会
8. ネウストプニー, J.V. (1982) 『外国人とのコミュニケーション』 岩波書店
9. 林建彦 (1990) 「日本人、韓国人、中国人の表現構造比較 D.C. バーンランド教授の日・米比較をベースとして」 『行動科学研究』 第30号 pp.15-42
10. 水谷修 (1989) 『話しことばと日本人 日本語の生態』 創拓社
11. Brown, P. Levinson, S.C. 1978, 1987 *Politeness: Some universals in language usage* N.Y. Cambridge University Press

- 2 - 1 あなたは勉強、研究や仕事をどのくらい日本人といっしょにしていますか。
 a ほとんど毎日 b 1週間に2、3回 c たまにある d ぜんぜんしない
- 2 - 2 a , b , c と答えた人に聞きます。
 あなたはそれらの人とどの程度交流していますか。いくつか選んで、をつけてください。
 a あいさつをする b 休み時間にいっしょにお茶を飲むことがある
 c いっしょに食事をする d いっしょに遊びに行くことがある
 e 部屋、家に行ったり来たりする f その他()
- 2 - 3 あなたには日本人の友達が何人いますか。(ここで、友達というのは、いっしょに食事をしたり、個人的な話や相談をしたりすることができる人のことです。)
 a いない b 1人 c 2人 d 3~4人 e 5人以上
- 3 日本と日本人について、どんなイメージを持っていますか。2つの言葉のうち、どちらに近い
 か、程度も考えて、をつけてください。

[人々について]	とても	すこし	ふつう	すこし	とても	
正直ではない	1	2	3	4	5	正直だ
責任感がない	1	2	3	4	5	責任感がある
つめたい	1	2	3	4	5	あたたかい
親切ではない	1	2	3	4	5	親切だ
信頼できない	1	2	3	4	5	信頼できる
つきあいにくい	1	2	3	4	5	つきあいやすい
差別する	1	2	3	4	5	差別しない
[国について]						
貧しい国	1	2	3	4	5	豊かな国
伝統文化が少ない国	1	2	3	4	5	伝統文化が多い国
嫌いな国	1	2	3	4	5	好きな国

- 4 - 1 日本人の会話と、あなたの国の会話の違いを感じることがありますか。
 a よくある b ときどきある c たまにある d ない
- 4 - 2 a , b , c を選んだ人は、どんな点が違うと感じますか。

いくつか選んでください。

- a 日本人は「すみません」を言いすぎる。
 b 謙遜する言葉をよく使う。
 c 本当の気持ちと違うことをよく言う。
 d 答が「はい」か「いいえ」か、はっきりしないことがある。
 e 会話の進め方(話の順序)が違う。
 具体的に()

f 話題にすること、しないことが違う

具体的に()

g その他()

5 - 1 日本人の会話の仕方、好きな点がありますか。それは、どんなことですか。

どちらに近いか、程度も考えてをつけてください。

	ない	すこし	いくつか	かなり	たくさん	
ない	1	2	3	4	5	ある

[好きな点]

5 - 2 日本人の会話の仕方、自分も取り入れたいと思う点がありますか。それは、どんなことですか。

a はい b いいえ

[取り入れたい点]

6 - 1 日本人と話すとき、何か「不自然な感じ」や「快適ではない感じ」などの気持ちをもつことがありますか。

a いつもある b よくある c ときどきある d たまにある e ない

6 - 2 a, b, c, dを選んだ人に聞きます。

日本人と話すとき、どんなことに「不自然な感じ」や「快適ではない感じ」をもちますか。下の表の a ~ t の中から、いくつでも選んでください。

[書き方]:「今、そう感じる」ことは左の四角に、「来日して初めのころ、そう感じた」ことは右の四角にを書いてください。「今も、初めも。」のときは、左と右の両方に書いてください。

(今) (初め)

- a 話すとき、相手の目を見ない。
- b よく笑って話すが、自然な笑いではない。
- c 人が話しているとき、「ええ」「そうですね」などの言葉をよく使う。
- d 名前のかわりに、「あなた」「おまえ」などの嫌な呼び方をする。
- e あいさつで、本当ではないことを言う。例)「いつもお世話になっています。」
- f いろいろなときに「すみません」と言う。悪くないときでも、言う。
- g ものをもらったとき「ありがとう」を言いすぎる。ほめるときも、ほめすぎる。
- h 「はい」か「いいえ」か、よくわからない答え方をする。
- i 自分の考えをはっきり言わない。
- j はっきり言わないで、相手がわかってくれるのを待つ。

- k 怒っているのか、喜んでいるのか、わからないような話し方をする。
- l 心を開いて、自分の本当の気持ちや考えを相手に伝えようとしなない。
- m 本当の気持ちと違うことを言う。例)「今度、遊びに来てください。」
- n 敬語を使って、ていねいすぎる話し方をする。
- o 形だけ、謙譲語を使った言い方をする。例)「～させていただきます。」
- p 決まった形の文で、決まった順番の話し方をする。
- q いらぬ言葉が多くて、話の進め方が遅い。
- r みんなが同じようなことを言って、自分の考えを言わない。
- s 日本人の言い方で話すとき、本当の自分ではないような感じがする。
- t その他()

7 [6-1]と[6-2]の問題で、「今」と「初めのころ」を比べて、「変化した」と思うことがありますか。あったら、どんなことが、書いてください。(6-2でわかることは書かなくてもいいです。)

8 [6-2]の表で をつけたことの中で、とくに強く「快適ではない」と感じるのは、どれですか。2つだけ選んで、例のように記号で書きなさい。

例) b、m

・ _____ ・ _____

9 日本人と日本語で話すときは、日本人の会話の仕方です話したほうがいいと思いますか。その理由は何ですか。

a はい b いいえ

c その他()

[理由] _____

10 外国の文化には、必ず自分の国の習慣や考え方と違うことがあります。外国で生活するとき、自分の行動や生活習慣はどのようにしたらいいと思いますか。

- a 強い意志を持って、自分の文化の習慣を守る。
- b その国の習慣に合わせて、自分のやり方を変える。
- c いいところは取り入れるが、そうでないところは取り入れないで、自分のやり方を守る。
- d 日本人とつきあうときだけは日本人のやり方に合わせて、それ以外は自分のやり方を守る。
- e その他()

(ご協力ありがとうございました。)